

ビデオ黎明会の皆様へ；平成26年度会へのご挨拶とご提案の要旨

――麻倉怜士氏 DVD；VICTOR'S DNA FOREVER（ビクター高柳会）の配布に当たり――

はじめに

本日こうしてお集まりの黎明会の皆さん、お元気で何よりとお喜びを申し上げます。今日ご参加の皆さんには、AV評論家・麻倉怜士氏のビクター高柳会における講演DVDが配られることになり、この関係で冒頭に私に少々時間が与えられました。この麻倉さんの講演は全ビクター関係者への実に嬉しいメッセージであり、特に当初のVHSについて、そのメカ・タッチが高く評価されているので、一部だけでも黎明会の皆さんに見てもらいたいと申し上げたところ、幹事会は全講演DVDの配布を決め、小山典幸さんがそのコピーを引き受けてくれて実ったものです。是非ご覧になってください。折角の機会なので、ビクター高柳会に麻倉さんの講演を依頼するに至った、私の気持等をお伝えし、さらに二つのご提案をしておきたいと思えます。

1) 日本ビクターの消滅と中年世代からのメッセージ

皆さん日本ビクターは今や完全に消滅しました。その結果、多くのビクター関係OB会では、世代断絶が生じて、新たな中年世代はあまり入ってきていません。

その中年世代からご自分の気持ちを表している代表的なメッセージ2例を紹介します。

① 最近ではビクターに勤めていたと言えなくなりました。残念です。

② **This was one of those moments that made me very proud for having worked for JVC.**

この2例に見られるお二人の気持ちの持ち方には大変な違いがあります。お仕事への取り組みにも大きく影響しているでしょう。①の方の気持ちは勿論ビクターの消滅が原因ですが、もう一つ②の方のような誇りを維持させる情報不足の問題があります。この情報不足を補うために、ビクター高柳会が大切にしていることは「語り継ぎ」です。中年世代の気持ちが少しでも上記①から②に変わって元気を出してくれないかとの願いからです。昔のビクターを高く評価している麻倉怜士氏に講演をお願いしたのも同じ願いからです。

2) HP（ホームページ）について

OB会に入っていない中年世代に情報を提供するためにもう一つ、寿会HPの改善が進んでいます。現在は三つのOB会（ビクター高柳会、オーディオ杉の会、ビデオ黎明会）を通じて、ビクター史等の情報提供がされるようになってきました。黎明会のHPは平綿聡さんのご尽力によるものです。そしてこれらのHPから次のような情報は伝えられるものと期待しています。

すなわち、中年世代の人は「ビクターは優良会社」と信じて入社したのに、その会社が消滅してしまって味わっている衝撃と悲哀かもしれないのですが、日本ビクターは戦後に長い苦難の時期があり、大きな負債を抱えた会社から、まずは「音のビクター」として、さらにテレビの時代を経て、ビデオの繁栄期へと一歩ずつ成長を続けた会社だったことです。そして特に黎明会HPの 大曾根収さん論文「VHS 世界制覇への道」の題名通り、世界制覇という比類なき頂点を極めた会社だったのです。

しかし現在残念なことに、当然あってしかるべき苦難に打ち勝つヒントや一体どのようにしてその頂点VHS 世界制覇に到達したか等々の情報は全く不足しています。

3) 提案の 1

提案その 1 はこの情報不足を黎明会皆さんの原稿をHPへアップすることで満たして頂くことです。内容としては、ビデオの思い出話、手柄話、苦労話、等々で良いと思います。多分その一つ一つが、「VHS 世界制覇への道」の一コマ一コマとなるでしょう。

原稿は自分で書くもよし、語って誰かに書かせても結構です。

実はこれ上野吉弘さんの提案で、平綿幹事が依頼されていたことです。

4) 提案の 2

提案その 2 は、2016 年・次々年度の黎明会をVHS 40 周年記念大会として、特に多くの後輩に参加を呼びかけることです。提案の 1 の原稿が沢山にHPに集まり、これが関心と呼ばば、多くの参加者が期待され、この黎明会の世代断絶が解消とまでは行かないまでも、大幅に緩和はされることでしょう。

おわりに

ビクターの消滅はあまりにも衝撃的な出来事であったがゆえに、皆さんは過去を語ることを中止していませんか。しかし私たちの後輩・中年世代が今なお元気に仕事を続けるためには、会社の消滅自体は一旦棚上げし、しかしビクターと自分の過去は否定せず、勇気を出して前進する以外に道はありません。あのローマ帝国だって消滅したのですから。そしてローマ帝国は消滅してもローマ時代の文明には復活ルネッサンスがあったのです。ビクター文明の復活を信じ、過去の記述へのご尽力を期待したいと思います。

以上

追加補足

VHS 40 周年を前に、その歴史の見直し第 1 ページは、多く言われている事「VHS の世界制覇は 2 時間ビデオによる」から、常識的内容に改めて「VHS の世界制覇はより沢山のビデオを生産し、より沢山のビデオを販売した」からのスタートにすることです。そこではこの黎明会の皆さんの全て努力が大曾根論文「世界制覇への道」の要素として生き返ります。当時ベータの対応は極めて速くて、VHS 2 時間の優位性を販売に優位に生かした期間は全くなかったのですから。